

調査レポート: 今後のPeopleSoft ロードマップに関するライセンシーの見解

調査結果によると、現在のPeopleSoftリリースは
ビジネスニーズを満たしており、ライセンシーは、
価値を最大限に高めて耐用期間を延ばすための
戦略を実施しはじめています

目次

概要	3
背景	4
調査の目的と方法	5
主なインサイト	7
調査分析	8
今後のPeopleSoftロードマップに向けた5つの提案	16
参考資料	17

概要

全体として、本調査に回答した、PeopleSoftライセンスを持つIT組織の97%が、現在のERPリリースはビジネスニーズを満たしていると報告しています。

現在導入されているOracle ERPは自社のビジネスニーズを満たしていますか？

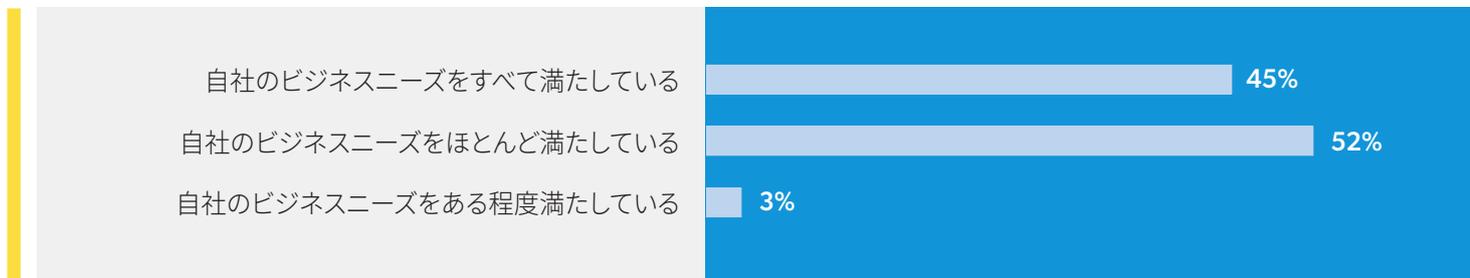


図3

ライセンシーは、現行のPeopleSoftリリースの堅牢性を考慮し、基幹ビジネスプロセスの基盤として、今後長年にわたってこれらのリリースを最適化するための措置を講じています。実際、回答したPeopleSoftライセンシーの64%以上が、Oracleのフルサポートが終了した一部のリリースを利用しています。

回答者の利用しているPeopleSoftアプリケーションのバージョンで最も多かったのが9.2 (60%)、次いで9.1 (44%) です。現在、9.1以前のPeopleSoftリリースはすべてOracleのフルサポートが終了しており、新しい修正プログラム、重要なパッチ更新、セキュリティアラート、および税・法規制の更新を受けられなくなっています。²

現在、PeopleSoft (FMS、ESA、SCM、HCMなど) アプリケーションのどのバージョンを貴社で利用していますか？

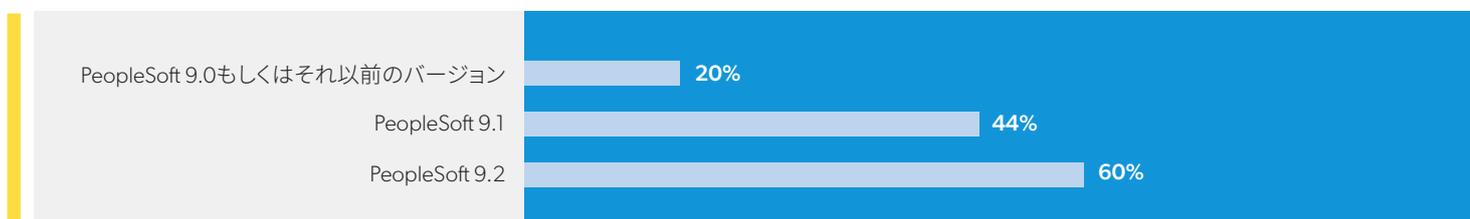


図4

PeopleSoftライセンシーは、現在のリリースの価値を最大限に高め、耐用期間を延ばすための戦略を実施しています。

多くのPeopleSoftライセンシーが、高額でROIの低いリリースアップグレードやOracle Cloud ERPへの完全移行に多大な時間、人材、資金を投入する代わりに、堅牢かつ成熟した現行リリースの価値を最大化し、耐用期間を延ばすための措置を講じるようになっていきます。例えば、PeopleSoftソフトウェアをクラウドホスティングプラットフォームに移行したり、アプリケーションマネジメントサービスを活用したり、年間保守サポートをリミニストリートなどの第三者保守サポートプロバイダーに切り替えたりしています。

Gartner社による2020年の予測に関する調査報告書でも、次の所見が述べられています。

「レガシーソフトウェアのサポートコストが年々増加する一方で、そのサポートから得られるメリットは減少しているため、ますます多くの企業が、低コストの第三者保守サポートの選択肢を検討するようになっていく。...多くのバイヤーは、カスタマイズされたコードのサポート、相互運用性サポート、グローバルな税・法規制・セキュリティサービスなど、第三者保守サポートプロバイダーが提供する付加価値の高いサービスを認識するようになっていく。」³

以下の詳細な調査結果をみると、PeopleSoftライセンシーが、コストの増加、リスクの増大、新しい価値の減少など、ベンダー主導のロードマップで直面する課題に対して積極的に取り組んでいくための手順やインサイトが得られます。

背景

今日、多くの企業では、ERPアプリケーションの日常運用コストにかなりのIT予算を費やしており、予算の90%を占めています¹。フルサポートを維持するためだけに、ソフトウェアベンダー主導のロードマップに従ってアップグレードとソフトウェア更新を続けても、競争優位性が向上することはほとんどありません。

それにより、PeopleSoftを利用する多くの企業が、自ら主導権を持ち、(ソフトウェアベンダーのスケジュールにあわせるのではなく、) ビジネスニーズに基づくITロードマップを策定する新しいアプローチを進めています。これには、実証済みの革新的アプローチによってERP保守サポートや日常業務を最適化し強化することや、ビジネスに対して最大限に新たな価値をもたらすクラウドモデルを選択することが含まれます。

PeopleSoft顧客の直面している課題は、使用しているリリースによって少し異なり、戦略の方向性に影響をもたらします。

- 最新リリース(9.2)にまだアップグレードしていない場合、Oracleのフルサポートが終了しているため²、新しい修正プログラム、重要なパッチ更新、および税・法規制の更新を受けられません。そのため、アップグレードするか、それともソフトウェアベンダーのサポートとサービスのモデルに代わる優れた選択肢を探るかという選択を迫られています。
- 9.2リリースを利用している場合、Oracleロードマップ上に新しいメジャーリリースの予定はなく、フルサポートを維持するために更新を継続的に適用することを余儀なくされます。更新プログラムによって得られる価値はあまりなく、戦略的な取り組みに充てる時間も奪われています。いつまでこのロードマップ上にとどまるべきか、クラウドの他の選択肢を考慮すべきか、あるいは他のベンダーを検討すべきかという決定を迫られています。

最近リミニストリートは、IDGの協力を得て、世界中のPeopleSoftライセンシーを対象に調査を実施しました。現在利用しているPeopleSoftのメジャーリリースに関連して直面している主な課題と、実施している戦略、またPeopleSoftプラットフォームに関する今後の計画について、データとインサイトを収集するためです。

調査の目的

この調査は、特に以下の問題についてデータを収集する目的で行われました。

- PeopleSoftソフトウェアの導入、ベンダーサポート、およびPeopleSoftプラットフォームの今後の計画に関する、現在の顧客満足度
- Oracleのフルサポートが終了した(9.2より前のバージョンを利用している)顧客の場合：PeopleSoftアプリケーションに必要なサポートを受けるためにどんなアプローチを採用するか、9.2へのアップグレードやアプリケーションマネジメントサービス(AMS)の活用の可能性についてどんな計画や考えを持っているか
- 最新リリース(9.2)を利用している顧客の場合：Oracleの継続的な更新による実際の使用状況と価値はどんなレベルか、Oracleのロードマップに付いていくためにどんな人材やアプローチを採用しているか
- PeopleSoftの顧客は、特にサービスとしてのインフラ(IaaS)やサービスとしてのソフトウェア(SaaS)など、クラウドコンピューティングに関して、現在そして将来的にどんな計画を立てているか

方法

調査は、PeopleSoftを利用する18種の業界のプロフェッショナル200人を対象に行いました。CIO、IT担当責任者、IT担当ディレクター、IT担当マネージャー、そしてOracleアプリケーションの主任、マネージャー、管理者など、様々な役職が含まれています。

回答者は、米国から100人、英国から50人、香港、シンガポール、マレーシア、オーストラリアから50人が選ばれました。この調査は、2020年3月17日から2020年3月27日まで、米国、英国、香港、シンガポール、マレーシア、オーストラリアで実施されました。

調査回答者の役職

Oracleアプリケーション管理者	11%
Oracleアプリケーションマネージャー	17%
Oracleアプリケーション主任	4%
IT担当ディレクター/マネージャー	48%
IT担当責任者	6%
CIO	14%

図1

調査回答者の業界

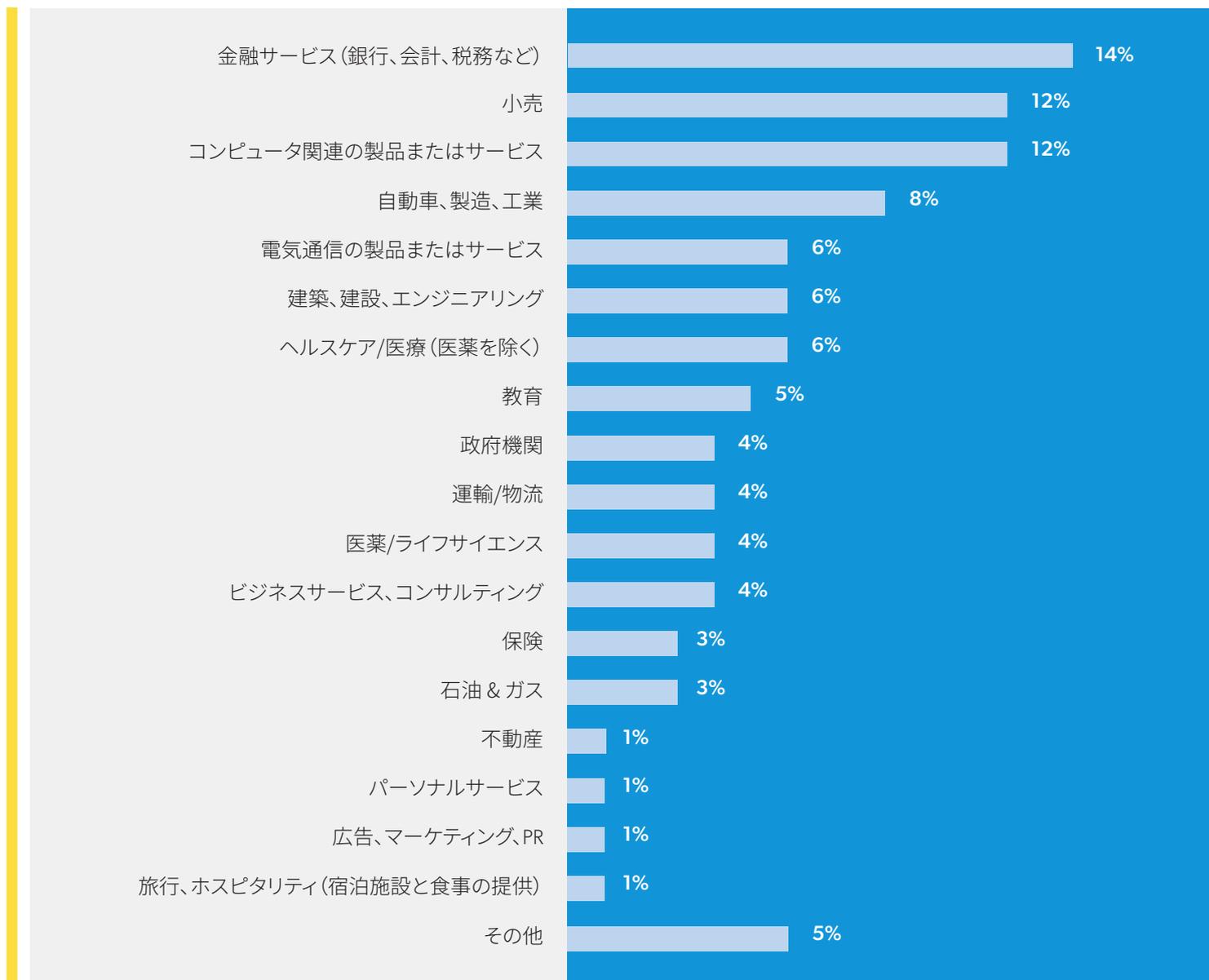


図2

主要なインサイト

この調査結果により、以下の5つの重要なインサイトが明らかになりました。それぞれについては、調査分析でさらに詳しく説明します。

インサイト01

PeopleSoftライセンスを持つIT組織の回答者は、継続的なベンダーサポートのコスト (**56%**) や品質 (**43%**) について不満を抱えています。

インサイト02

回答したPeopleSoftライセンシーの**74%**が (9.2より前のバージョンを実行中で) Oracleによるフルサポートが終了しており、PeopleSoftアプリケーションの一部またはすべてにAMSを使用しています。また、3分の1は第三者保守サポートを使用または検討しています。

インサイト03

回答したPeopleSoftライセンシーの大半 (**97%**) が、現在のPeopleSoftリリースはビジネスニーズを満たしていると述べており、半数未満 (**44%**) が、9.2にアップグレードする明確な計画を立てていますが、主な理由は新機能ではなく、保守とサポートです。

インサイト04

回答したPeopleSoft 9.2ライセンシーの大部分は、主に保守上の理由から、更新を最新の状態に維持していますが、強力な新しいイノベーションが継続的に得られていると感じているのは、半数未満 (**47%**) です。

インサイト05

87%の回答したPeopleSoftライセンシーが、PeopleSoftソフトウェアにクラウドホスティングプラットフォームをすでに利用しているか、移行中もしくは評価中です。また、何らかのSaaSを選択している回答者の**70%**は、Oracle以外の最善のソリューションを利用しています。

調査分析

インサイト 01

PeopleSoftライセンスを持つIT組織の回答者は、継続的なベンダーサポートのコスト (56%) や品質 (43%) について不満を抱いています。

回答したPeopleSoftライセンシーの大半は、高い年間料金、対応とエスカレーションに関する課題、カスタマイズされたコードのサポートの非対応など、いくつかの分野でベンダーのサポートに不満を抱いています (図5)。回答したPeopleSoftライセンシーの大半は、利用しているリリースに関係なく、いくつかの分野でベンダーサポートのコストと品質に不満を抱いています。主な不満としては、高額な年間保守料金、ベンダーの問題対応に時間がかかること、サービスリクエストに対応する適切な専門知識を得るために優先チケットを何度もエスカレーションする必要があることが挙げられています。さらに、ベンダーがカスタマイズされたコードのサポートに対応していないことも、回答したPeopleSoftライセンシーにとっての課題になっています。

Oracleの保守とサポートに関する最大の課題は何ですか？

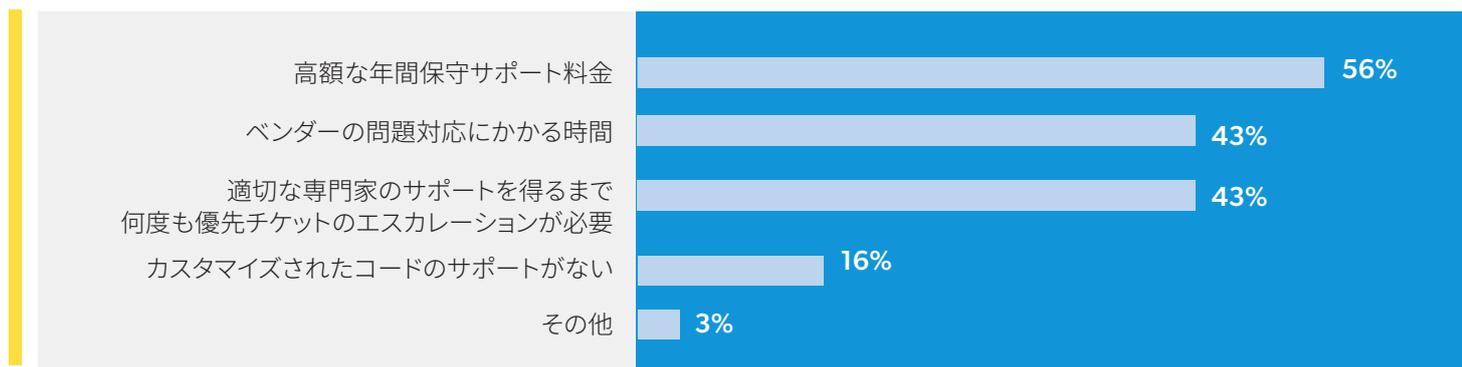


図5

回答者したPeopleSoftライセンシーの**74%**が(9.2より前のバージョンを実行中で) Oracleによるフルサポートが終了しており、PeopleSoftアプリケーションの一部またはすべてにAMSを使用しています。また、3分の1は第三者保守サポートを使用または検討しています。

現在、PeopleSoft ERP環境の一部を、Tier 2のアプリケーションマネジメントサービス (AMS) プロバイダーにアウトソーシングしていますか？

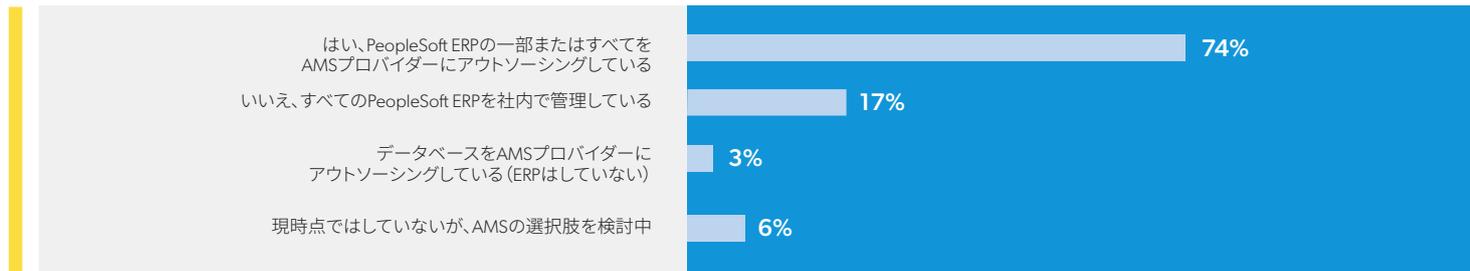


図6

PeopleSoftライセンシーでリリース9.1以前のリリースを実行している回答者はOracleのフルサポートが終了しており、そのうちの72%は、PeopleSoftリリースの新しい修正プログラム、CPU、セキュリティアラート、および税・法規制の更新が含まれていないにもかかわらず、いまだにベンダーのSustaining Supportに費用を払っています。

同時に、これらのPeopleSoftライセンシーの回答者の43%が税・法規制の更新に対して個別に費用を払っているのに対し、39%はPeopleSoft環境のセルフサポートに独自の人材を割り当てています。これは、これらのPeopleSoftライセンシーが、ベンダーサポートに係る追加コストと、ビジネスニーズを満たすためのその他のリソースに対して負担していることを示しています。

また、これらの回答者の33%が、PeopleSoftアプリケーションに対する第三者保守サポートを現在使用または検討していると述べています。興味深いことに、これらの調査回答者の一部はSustaining Supportに費用を払いながら、異なるPeopleSoftリリースに対して第三者保守サポートも使用しています。これは、今日の多くのPeopleSoftライセンシーが、単一のバージョンではなく、9.1以前の複数のリリースの組み合わせをビジネス用に利用していることを示しています。

AMSベンダーの顧客満足度が低下

Gartner社によると、「上位」AMS企業に対する評価は5.00中3.03であり、AMSベンダーの顧客満足度は低下傾向にあります。⁴ITチームは、現在のAMSサービスから本当に価値が得られているのか疑問に感じ始めているのかもしれない。

現在、PeopleSoft環境をどのようにサポートしていますか？ (9.2より前のバージョンを実行しているライセンシー)

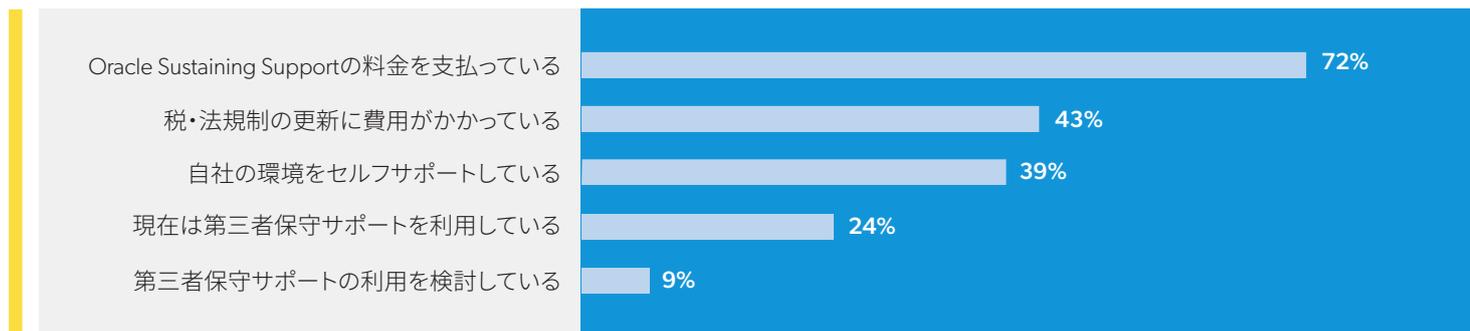


図7

回答したPeopleSoftライセンシーの大半(97%)が、現在のPeopleSoftリリースがビジネスニーズを満たしていると述べており、半数未満(44%)が、9.2にアップグレードする明確な計画を立てていますが、主な理由は新機能ではなく、保守とサポートです。

PeopleSoft 9.2にアップグレードする主な理由は何ですか？

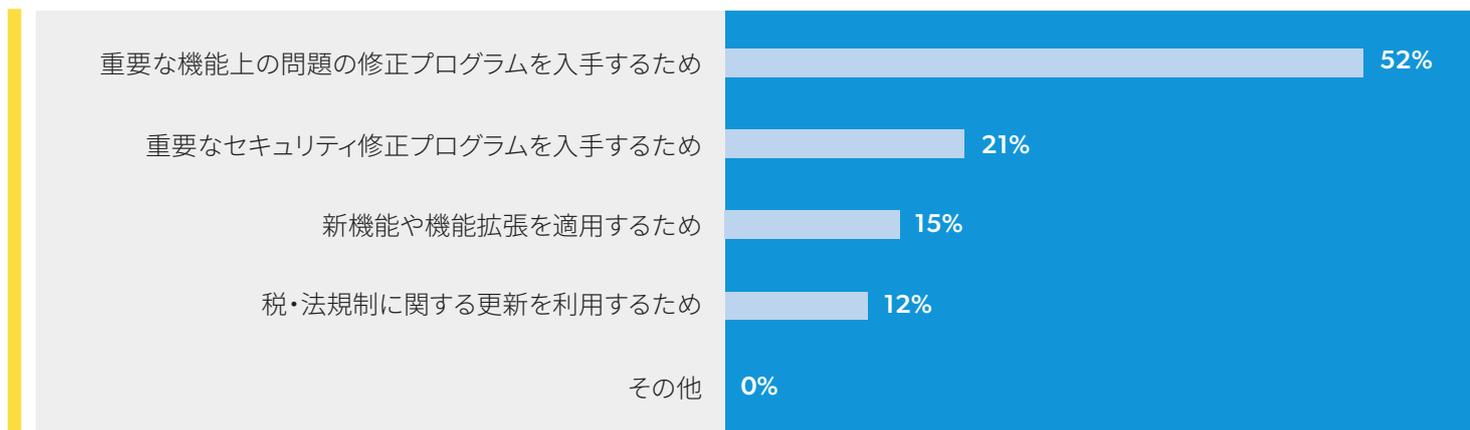


図8

この見解は、年次Reconnectカンファレンスでの、PeopleSoftライセンシーを対象にした2019年の調査でも見られます。9.2ライセンシーの約50%⁵が、Oracleからの「選択的導入」戦略の一環として、エンドユーザーに新機能をまだ展開していないと述べています。

リミニストリーのエンジニアは、FSCMおよびHCMモジュール用に配布された最初の28の更新で、800個のPeopleSoft 9.2イメージを分析しました⁶。この分析では、Oracleが提供するPeopleSoft更新のいくつかの興味深い側面が示され、ライセンシーがそれらを使用している方法と理由が明らかになりました。

- 既存のモジュールに対する大幅な機能強化と見なされる更新は5% (800のうちの40) に過ぎません。
- 更新の約25%は、既存のフォームをFluidページに変換したものです。
- すべての更新の20%以上は、コンプライアンスを維持するための税・法規制の更新でした。

最も興味深いのは、イメージの87%に1つ以上のモジュールの更新が含まれていないという事実です。これは、すべてのイメージにすべてのライセンシーに適用される更新が含まれているわけではないことを示しています。

調査回答者のリリース概要

PeopleSoftリリース9.1以前をまだ実行している調査回答者のうち、明確に最新リリースへのアップグレードを計画しているのは半数未満（44%）です。

貴社ではPeopleSoft 9.2への移行を計画していますか？

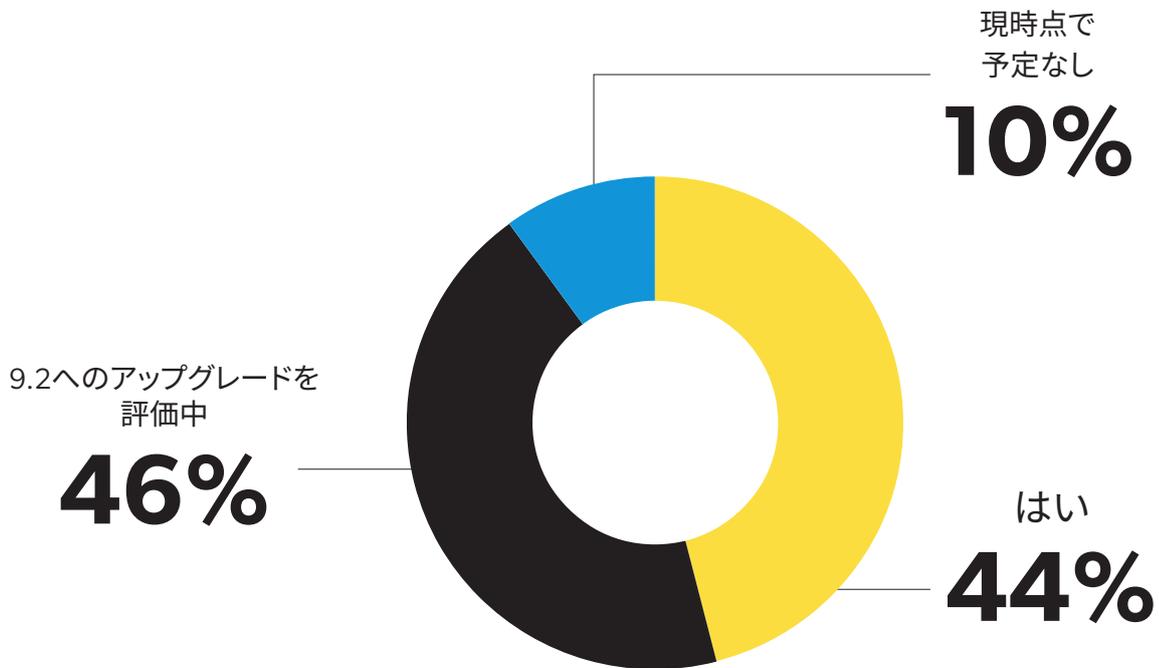


図9

これらの知見は、AMSや第三者保守サポートに向かう傾向を示しており、多くのPeopleSoftライセンサーがアップグレードを新たな価値や機能強化の推進のためではなく、PeopleSoftシステムの稼働とサポートを継続するための手段と見なしていることがわかります。

回答したPeopleSoft 9.2ライセンスの大部分は、主に保守上の理由から、更新を最新の状態に維持していますが、強力な新しいイノベーションが継続的に得られていると感じているのは、半数未満 (47%) です。

9.2を利用しているPeopleSoftライセンスは、現在、ベンダーから年に複数回更新を受け取っていますが、これはフルサポートの利用を維持するために必要なものです。しかし、更新の頻度や、更新に伴う回帰テストと検証の必要性を考慮して、この調査では、ライセンスが9.2の更新を適用する頻度と理由、また更新にどのレベルの人材が必要になるかについて詳しく調べました。

PeopleSoft 9.2イメージの更新を適用する頻度はどれくらいですか？

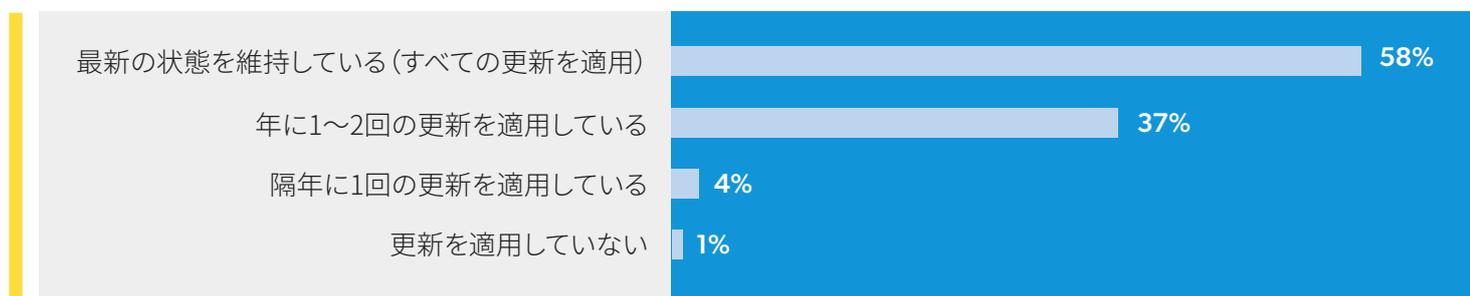


図10

9.2の更新を適用するには、時間と人材が必要です。58%の回答者がすべての更新を適用することで最新の状態を維持していると述べており、37%が年に1~2回の更新を適用していると述べています。これは、更新サイクルをサポートするための継続的な人材とプロセスが必要であることを示しています。

9.2イメージ更新のテスト、検証、および適用にかかる平均時間は約3週間で、その作業を行うのに約4人の人材が必要でした。

9.2の更新のテスト、検証、および適用には平均してどれくらい時間がかかりますか？

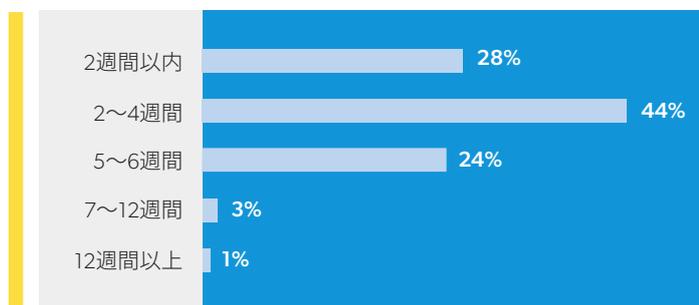


図11

9.2の更新を実行するために割り当てている人数は平均何人ですか？

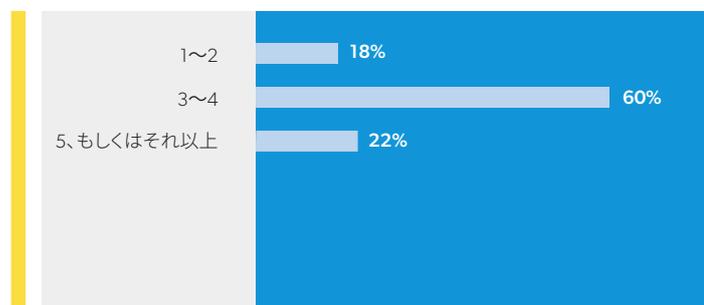


図12

58%の回答者がすべての更新を適用することで最新の状態を維持していると述べており、37%が年に1~2回の更新を適用していると述べています。これは、更新サイクルをサポートするための継続的な人材とプロセスが必要であることを示しています。

PeopleSoft 9.2イメージの更新を適用する理由は何ですか?1つ以上の回答を選択してください。

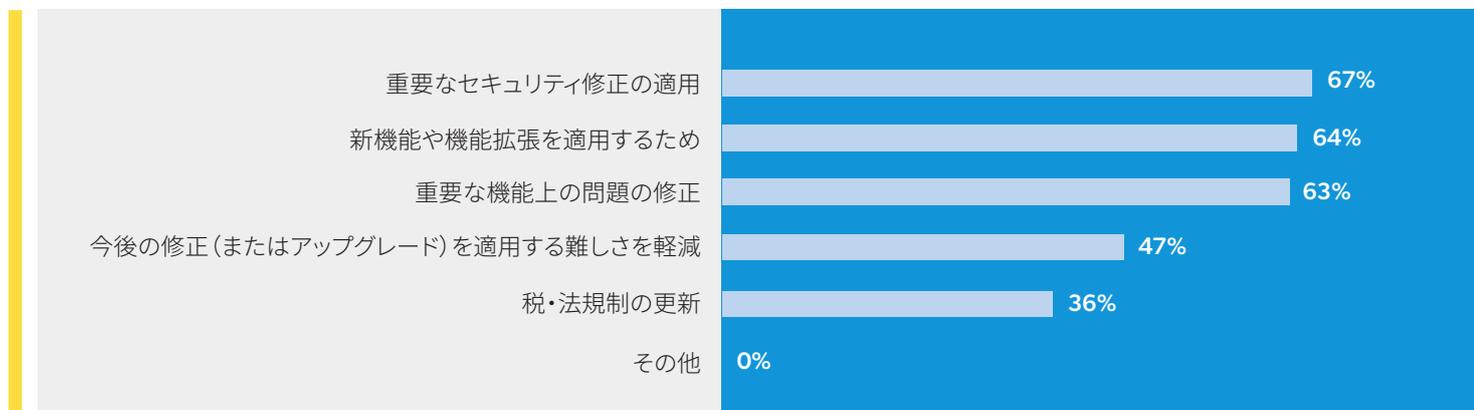


図13

9.2の更新を適用する主な理由としては、セキュリティや機能に関する修正プログラムを適用することと、新機能や機能強化を展開することが挙げられます。

9.2ライセンスの回答者は、新機能の展開を含め、一貫して更新を適用していると述べていますが、それらの機能から強力な新しいイノベーションが得られていると述べているのは半数未満です。

PeopleSoft 9.2の更新から、有意義なイノベーションをどの程度得られていますか?

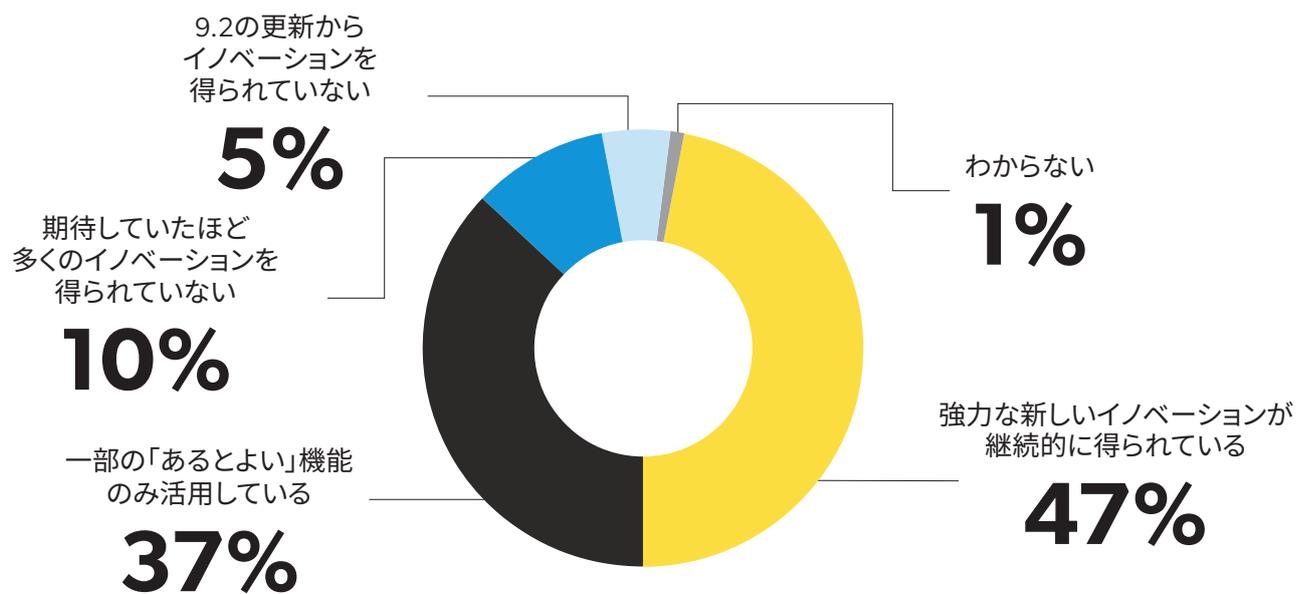


図14

87%の回答したPeopleSoftライセンシーが、PeopleSoftソフトウェアにクラウドホスティングプラットフォームをすでに利用しているか、移行中もしくは評価中です。また、何らかのSaaSを選択している回答者の**70%**は、Oracle以外の最善のソリューションを利用しています。

サービスとしてのインフラストラクチャ (IaaS) と呼ばれるクラウドホスティングプラットフォームへのPeopleSoftソフトウェアの移行が勢いを増しています。調査対象の87%の回答者が、PeopleSoft ERPの一部またはすべてにクラウドプラットフォームを利用しているか、積極的に移行中、もしくは評価中です。

Oracle ERPの一部またはすべてをクラウドホスティングプラットフォーム (IaaS) に移行する予定ですか？



図15

ライセンシーは、PeopleSoft環境の側面をSaaSアプリケーションで補完しています。調査対象の77%の回答者が、Oracle ERPの一部をSaaSに置き換え済、積極的に移行中もしくは評価中と答えました。

Oracle ERPの一部またはすべてをクラウドSaaSアプリケーションに置き換える予定ですか？

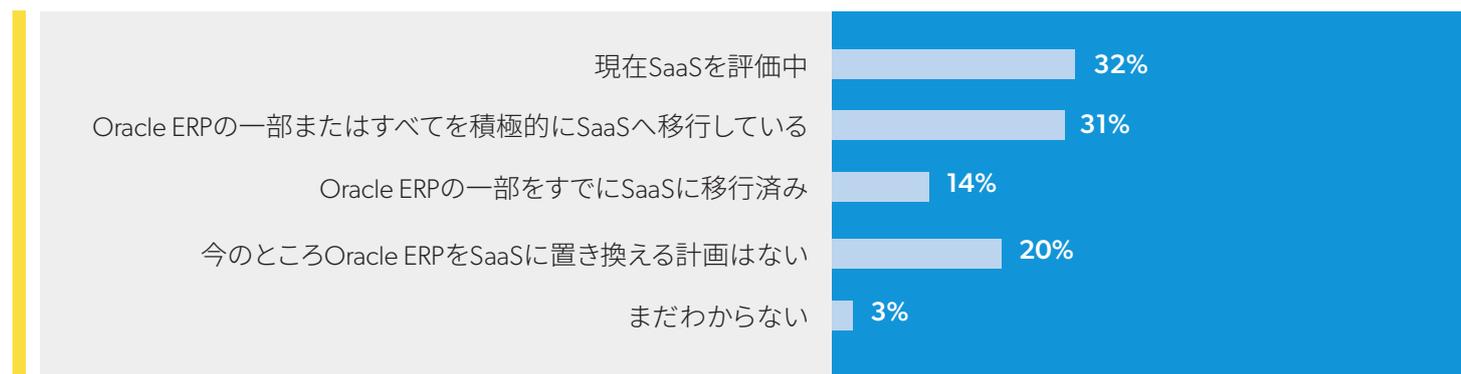


図16

とはいえ、Oracle ERPの一部をSaaSに置き換えたか、積極的に移行中もしくは評価中であると答えた回答者のうち70%近くは、クラウド戦略にOracle以外のSaaSを含めることを選択しており、単一ベンダーのアプローチよりも最善のアプローチを採用する傾向にあります。

Oracle ERPのSaaSへの置き換えについて、貴社ではどのような計画がありますか？

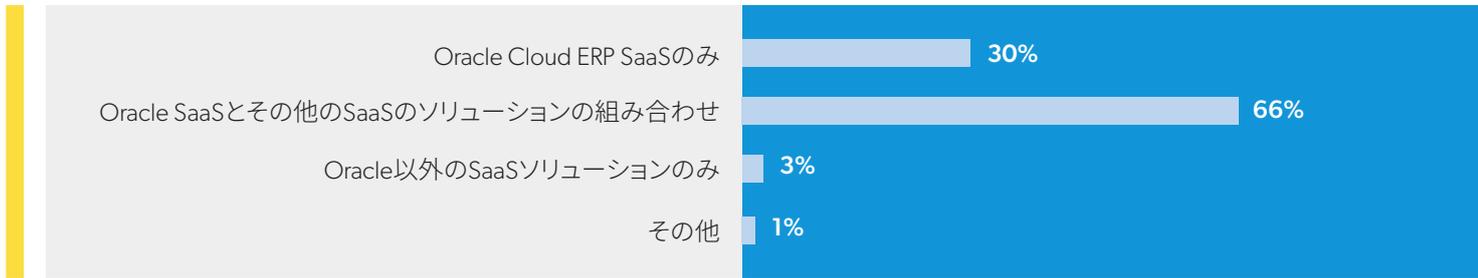
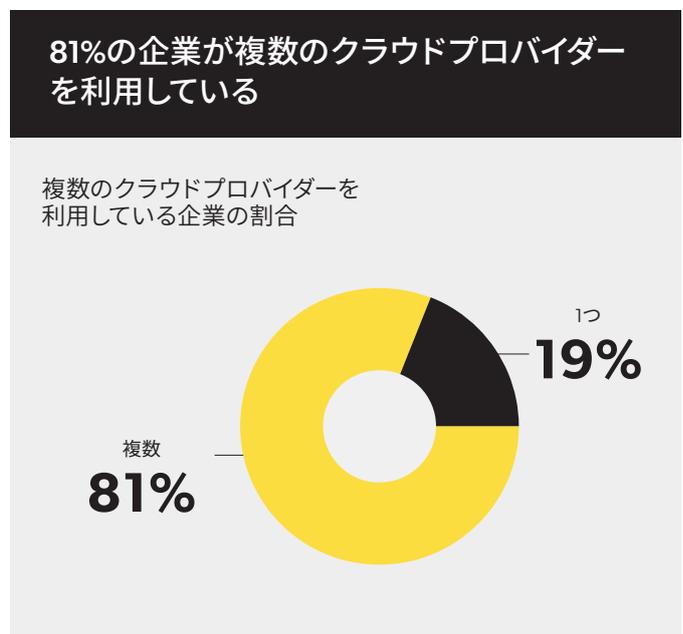


図17

全体として、PeopleSoft ERPとクラウドコンピューティングの傾向は、PeopleSoft ERPをSaaSに「完全に置き換える」回答者（14%）に比べ、既存のPeopleSoftアプリケーションをIaaSクラウドに「リフトアンドシフト」する回答者のほうが2倍も多く（29%）なっています。

PeopleSoftとクラウドに関するこの結果は、多くのPeopleSoftライセンシーが、ビジネスニーズに対応するために複数ベンダーの様々なソリューションが必要となる場合、ERPをSaaSに置き換える方法よりも、IaaSクラウドを利用して既存の実装の寿命を延ばす方法を求めていることを示しています。



2020年のGartner社調査によると⁷、回答者は平均2〜3種類のパブリッククラウドプロバイダーと2種類のクラウドを業務に利用しています。

今後のPeopleSoftロードマップに向けた 5つの提案

現在のPeopleSoftリリースの価値を最大化して耐用期間を延ばすための戦略を評価する

01 現在の年間保守費用の価値を把握する

保守サポートの年間料金および関連コストの価値を評価してください。継続的に得られるサポートと価値が少なくなる一方で、支出が増え続けていることに気付くかもしれません。このようなコストは、ビジネスに大きいインパクトをもたらす他の場所に投資すべきです。

02 ベンダーではなくビジネスにとって有用なITロードマップを策定する

PeopleSoftロードマップでソフトウェアベンダーが次に提供する予定のものを評価する際には、それらの更新がコスト削減や、収益と競争優位性の向上に本当に役立つか、それとも単に名目上のサポートを継続するために保守費用を支払うことになるか、注意深く検討してください。

03 財務と管理上のメリットから第三者保守サポートを利用する

使用しているPeopleSoftリリースに関わらず、独立系の第三者保守サポートを利用すれば、保守サポート費用を最大90%節約でき、少なくとも15年間はアップグレードや移行の必要がなく、アップグレード、更新の適用、または任意のクラウドへの移行を実施すべきか、いつ実施するかを自ら決定できるようになります。

04 AMSを活用してITの合理化と優先事項への注力を促進する

PeopleSoft向けのアプリケーションマネジメントサービス (AMS) と第三者保守サポートを組み合わせることで、継続的なERP日常業務からIT部門を解放できるという大きな変化がもたらされます。IT部門は、ビジネスに最大のインパクトをもたらす戦略的な優先事項に注力できるようになります。

05 クラウドホスティングを使用してERPをクラウド内で開始することで、即座に価値を得て、リスクを最小限に抑える

PeopleSoftをクラウドに移行することを検討する際、「リフトアンドシフト」アプローチを、具体的に迅速なコスト削減および効率化のための第一候補として評価します。戦略的なビジネスインパクトとして必要な場合は、クラス最高のSaaSアプリケーションの追加を評価します。

参考資料

¹Gartner: 「IT Key Metrics Data 2021: Executive Summary」 、 2020年12月11日

²<https://www.oracle.com/us/assets/lifetime-support-applications-069216.pdf>
<http://www.oracle.com/us/support/library/057419.pdf>

³Gartner Predicts 2020: 「Negotiate Software and Cloud Contracts to Manage Marketplace Growth and Reduce Legacy Costs」 、 2019年12月18日発表 - ID G00463732

⁴Tech Mahindra 「Critical Capabilities for Oracle Application Services, Worldwide」 、 2018年2月28日 <https://www.gartner.com/en/documents/3863664/critical-capabilities-for-oracle-application-services-wo0>

⁵<https://questoraclecommunity.org/learn/blogs/peoplesoft-selective-adoption-panel-customer-poll-results/>

⁶<https://www.riministreet.com/white-paper-unpacking-the-hcm-and-fin-pum-images-for-peoplesoft>

⁷Gartner: 「IT Leaders' Strategy Deck: Multicloud and Hybrid Cloud」 、 2020年1月15日



Rimini Street®

contactjp@riministreet.com
riministreet.com/jp
twitter.com/riministreet_jp
linkedin.com/company/rimini-street

リミニストリート (Nasdaq: RMNI) は、エンタープライズソフトウェア製品とサービスのグローバルプロバイダーであり、OracleおよびSAPのソフトウェア製品に対する第三者保守サポートにおいて業界をリードしており、またSalesforce®のパートナー企業でもあります。®リミニストリートは、エンタープライズソフトウェアライセンスにおいて、大幅にコストを削減し、イノベーションのために資源を自由にし、より良好な業績結果を達成することが可能となる、プレミアムで、非常に応答性が高い、統合型アプリケーションマネジメントおよびサポートサービスを提供しています。業界を問わず、フォーチュン500のグローバル企業、中堅企業、公共セクター組織等を含む顧客が、信頼できるエンタープライズソフトウェア製品とサービスのプロバイダーとしてリミニストリートにサポートを委託しています。

© 2021 Rimini Street, Inc. All rights reserved. Rimini Streetは、米国およびその他の国におけるリミニストリートの登録商標です。Rimini Street, Rimini Streetロゴ、およびその組み合わせ、その他TMの付いたマークは、リミニストリートの商標です。その他のすべての商標は、それぞれの所有者の財産権を構成するものであり、別段の記載がない限り、リミニストリートは、これらの商標保有者またはここに記載されているその他の企業との提携や協力関係にあるものでも、またそれらを支持しているものでもありません。この文書はRimini Street, Inc. (「リミニストリート」) により作成されたもので、Oracle Corporation, SAP SE、または他のいかなる団体によっても後援、承認、または関係付けられたものではありません。別途、書面による明示的な記載がない限り、リミニストリートは記載されている情報についていかなる責任も負わず、商品性または特定目的への適合性の黙示的保証を含みますが、それに限定されないすべての明示的、黙示的、または制定法上の保証を行いません。いかなる場合でもリミニストリートは、この情報の使用または使用が不可能な事態によって生じる直接的、間接的、結果的、懲罰的、特別的、または付随的損害のいずれに関する責任も負いかねます。リミニストリートは、第三者により提供された情報の正確性または完全性について一切の表明または保証を行わず、当該情報、サービス、または製品について随時変更する権利を有します。

LR-68995 | JP-022221